

今日のトピック 米国のGDP成長率(2014年4-6月期速報値) 堅調な内需に支えられ大幅なプラス成長へ

ポイント1 マイナスから脱し、+4.0% に復調

寒波の影響脱し、プラス成長へ

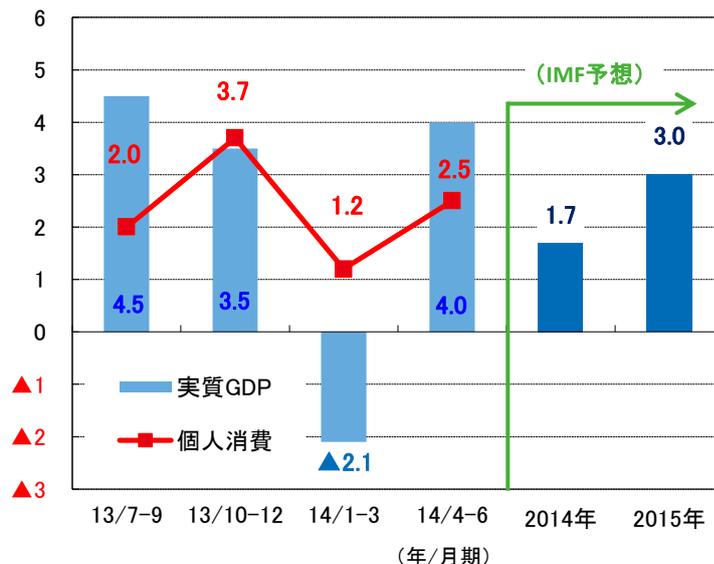
- 7月30日に発表された米国の4-6月期の実質GDP成長率(速報値)は前期比年率+4.0%と、市場予想の同+3.0%(ブルームバーグ集計)を上回りました。
- 前四半期は寒波の影響などにより同▲2.1%とマイナス成長となりましたが、今期は大幅に回復し、プラス成長へ転じました。

ポイント2 消費、投資、住宅など内需 は堅調

需要項目のすべてで改善

- 需要項目別にみると、個人消費が前期比年率+2.5%、設備投資が同+5.5%、住宅投資が同+7.5%と内需全般が前四半期よりも加速し、これら合計でGDP全体を2.6%分押し上げました。
- 寒波の影響が大きく出ている輸出は前四半期の同▲9.2%から同+9.5%へ、在庫投資の寄与度は前四半期の▲1.2ポイントから+1.7ポイントへ、いずれもプラス圏へと大きく改善しました。

(前期比年率、%) 実質GDPと個人消費



(注) データは2013年7-9月期~2014年4-6月期。
2014年、2015年はIMFの実質GDP成長率の予想(2014年7月時点。)
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 7-9月期以降は年率+3%前後が見込まれ、量的金融緩和策は終了へ

- 1-3月期に同+1.2%まで低下した個人消費は、可処分所得の着実な増加を背景に、4-6月期は同+2.5%に回復しました。所得環境の改善が続くことなどから、7-9月期以降も同+3%前後の堅調な推移が見込まれます。
- 在庫投資は、寒波の影響を受けた1-3月期からの反動増により大幅に改善したものの、7-9月期はその反動減が見込まれます。
- 堅調な内需に支えられ、7-9月期以降は年率3%前後の成長が見込まれます。IMFは2014年7月時点の見通しとして、2014年は+1.7%、2015年は+3.0%を見込んでいます。
- 堅調な経済成長が続くと見込まれることから、FRBは今年10月にも量的金融緩和策を終了し、2015年後半以降に利上げを行うことが見込まれます。

ここも チェック!

2014年07月31日【デイリー No.1,925】米国の金融政策(7月)
2014年07月28日【デイリー No.1,922】IMFの世界経済見通し(2014年7月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。